

水稲との輪作も可能なタマネギの新作型

高収益畑作担当 印南ゆかり

タマネギの生産拡大を図るため、水稲との輪作も可能な新作型を開発しました。タマネギは、北海道などの主産地から首都圏へ輸送されており、コストがかかるため、実需者から県内での生産が望まれています。これまで、県北を中心に作付面積を拡大してきましたが、従来生産が行われている畑ほ場ではこれ以上のほ場の確保が難しく、水田での生産拡大が必要となっています。

研究の結果、タマネギ早生品種（「スパート」等）を9月上旬に448穴セルトレイに播種し、10月下旬～11月上旬に水田（灰色低地土）に、黒マルチを敷設した幅100cmの畝に、株間12cmの4条植えて定植し栽培すると、4月下旬～5月中旬に収穫が可能となりました。

また、タマネギ収穫後の水稲作では、基肥を窒素成分で2kg/10a施用し、穂肥は無しとすることで安定した生産が可能です。

米麦主穀作経営においてコムギの一部をタマネギ新作型に転換すると、最も忙しかった6月の作業時間は減少し、収益性が向上します。

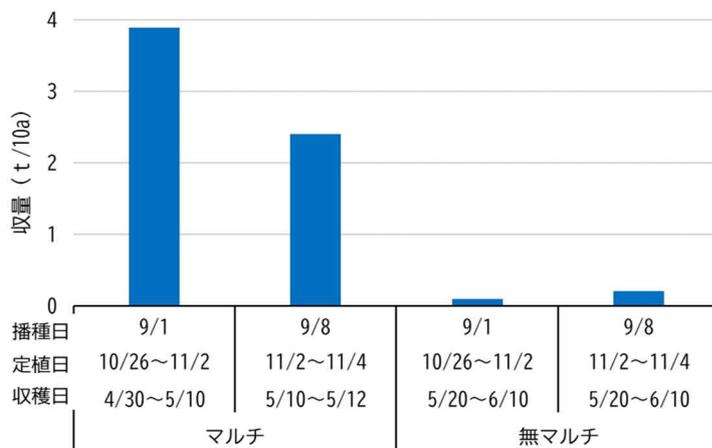


図1 タマネギの可販収量

表1 タマネギ新作型の導入有無別の所得例

(単位：千円)

作目	タマネギ新作型の導入	
	あり	なし
水稲	4,076	4,076
コムギ	3,068	3,540
タマネギ	1,392	—
合計	8,536	7,617

※水稲15ha・コムギ15haのうち、コムギ2haをタマネギに転換した場合の試算

作目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年計
水稲 (15ha)					▲	●			■				
					播種	移植			収穫				
コムギ (15ha → 13ha)								■				▲	
								収穫				播種	
タマネギ (2ha)						■			▲		●		
						収穫			播種		定植		
労働時間計 (水稲15ha+コムギ15ha)	75	9	24	0	210	986	135	87	332	26	276	0	2159
労働時間計 (水稲15ha+コムギ13ha+タマネギ2ha)	79	34	39	18	230	946	145	175	440	96	299	6	2505

図2 米麦主穀作経営にタマネギを導入した場合の月別の作業例